

令和元年度「文化庁日本語教育大会・京都大会」 第3分科会

地域日本語教育が持つべき 関連分野の視座

～多文化共生マネージャーとして地域日本語教育に期待すること～

NPO法人多文化共生マネージャー全国協議会 理事
京丹後市国際交流協会 事務局長
麻田 友子
(kokusai_koryu@kyotango.net)

多文化共生マネージャーとは？

在住外国人に関わる諸制度や諸課題について理解を深め、多文化共生社会の進展に対応するための知識の習得、関係機関・部局等とのコーディネート能力および企画・立案能力の向上を図ることを目的として、自治体国際化協会と全国市町村国際文化研修所（JIAM）と共催で実施している研修を受講し、自治体国際化協会が認定した者。

通称：タブマネ

特定非営利活動法人多文化共生マネージャー全国協議会とは

多文化共生マネージャーに認定された有志が集まって2009年に設立。多文化共生の推進にかかる研修や講演会を実施しているほか、各地の多文化共生マネージャーのネットワーク化を推進する事業等を実施。

(通称：NPOタブマネ)

<https://www.facebook.com/npotabumane/>



京丹後市多文化共生推進プラン策定(2018年3月)

◆第1次プラン (2015年3月策定) 3年計画

◆第2次プラン (2018年3月策定) 5年計画



IV プランの体系

基本目標	基本方針	施策
I 安心して生活 ができるまち	1 子育て・教育体制の充実	1-① 安心して子育てができる環境整備 1-② 子どもが安心して教育が受けられる環境整備
	2 就労環境の整備、新たな担い手の育成	2-① 就労支援の充実 2-② 外国人の能力を活かした地域産業の活性化
	3 健康で安心して暮らせる環境づくり	3-① 安心して受診できる環境の整備 3-② 保健・医療・福祉制度や日本の生活習慣等への理解促進
	4 災害に対する備えと、安心安全な生活環境の整備	4-① 災害時における情報伝達手段・支援体制の整備 4-② 防災意識の啓発 4-③ 防犯・交通安全の啓発
II 言葉の壁を 乗り越えるまち	5 日本語教育の充実	5-① 日本語教育の充実 5-② 日本語ボランティアの養成と連携強化
	6 多言語での情報提供・相談体制の充実	6-① 多言語での情報提供の充実 6-② 多言語での相談体制の充実
	7 外国語の学習機会の充実	7-① 外国語や多文化についての学習機会の充実
III フレンドシップ を育むまち	8 地域社会に対する意識啓発	8-① 多文化共生についての意識啓発 8-② 多文化共生に関わる人材育成
	9 外国人市民の自立と社会参画	9-① 外国人市民の社会参画の推進 9-② 外国人市民が社会参画できる環境の整備
IV 国際色豊かで にぎわうまち	10 京丹後市の魅力発信	10-① 観光情報の発信や京丹後市の魅力PR 10-② 外国人来訪者の受入体制の整備
	11 交流人口の増加	11-① 交流機会の提供
	12 他地域・他団体の連携・協力	12-① 他地域・他団体との各種分野での連携協力
		12-② 国際交流協会の機能充実

【アンケート結果】

日本人：回答率 36.9% (前回39.8%)

外国人：回答率 41.3% (前回28.5%)

Q 外国人との関わり

A 関わりがある→54% (前回16.3%)

Q 国際交流協会の知名度

A 知っている→22.8% (前回18.2%)

外国人市民アンケートの実施

外国人市民(16歳以上)にアンケートを実施 回答率:41.3%

Q: あなたは地域の日本人と どのような交流がしたいですか?

= 96.8%が、交流したい

- ★ 日本語、日本文化の学習がしたい(38%)
- ★ 自分の国の文化や言葉を日本人へ教えたい(12%)
- ★ 地域の活動に参加したい(19%)
- ★ ボランティア活動を一緒にしたい(16%)

Q: 市はどのような取り組みに力を入れるべき?

- ★ 市からのお知らせ多言語化(15%)
- ★ 日本語や文化を学べる機会を増やす(27%)
- ★ 子育てや子どもサポートを増やす(8%)
- ★ 働けるところを増やす(13%)
- ★ 災害時、情報提供の多言語化(15%)
- ★ 外国人がまちづくりに参加しやすくする(19%)

外国人市民アンケートの実施

アンケート結果から、外国人のニーズをデータとして把握することで、必要な連携先、予算の確保などに活かす。

役割

《 具体化 》 「課題」⇒「現状把握・共有」⇒「事業化」

- ★ 日本語教室の充実に向け、ボランティア確保
- ★ 日本文化団体との連携
- ★ 母国についての発表の場を設ける
- ★ 地域のイベント情報・ボランティア情報を伝える

具体化のPOINT

注目性

共感性

必要性

実現可能性

参加性

ひとり一人の日本語教室 (2009年～)

学習の機会を均等に

生活環境・居住地域の違い、語学レベル・学習ニーズの違い・・・

不便な公共交通

子育て・仕事との両立

個々のレベルやニーズ

どんな環境でも
学習の機会を
提供できるように

→ 公共施設を無料で日本語教室の会場として使用させてもらう。

- ★ 学習者&日本語支援ボランティアが通しやすい地域で
- ★ ライフスタイルに合った、時間帯に
- ★ 学習者のレベルやニーズに沿った内容で

【課題】

指導者の質の確保

日本語教室をオープンに！

市広報・ニュースレターなどで、
学習者とボランティアを紹介

賑やかに日本語教室交流会
「日本語教室交流会」
◆日時：3月8日
◆場所：梅山地域公民館

日本語教室で学ぶ、フィリピン、タイ、ベトナム、中国出身の学習者20人とボランティア11人が集い、お好み焼きを食べて交流を深めました。

普段はボランティアと指導者が1対1で学習しているので、大勢の学習者が集まり、それぞれの学習方法や目標などを語り合ったり、「お好み焼き」を初めて食べた感想などを言い合ったりしていました。



お好み焼きを初めて食べるという学習者も多く、ソースを塗ったりお好み焼きをかけるのが楽しくおしゃべりしながら堪能していました。

市内に住んで約10年のタイ出身のニールヌットさんは「日本語教室に通うまでは、外国人の友だちもいなかったけど、こうやって多くの友だちができて嬉しい！また、家にタイ料理を食べに来て！」と話していました。

＜日本語指導ボランティア募集中！＞

日本語教室で、日本語を指導して下さるボランティアを募集しています。日本語で教えるので、外国語ができなくても大丈夫です。興味のある方は、事務局へご連絡ください。

- ベトナム出身者（写真左）とタイ出身者（写真右）が音聲に合わせて、タイ語を覚えてくれました。
- 一部別家の人間士も多かったですが、すぐに打ち解けて、賑やかな交流会でした。



京丹後市の場合・・・

語学ができない人には、教えられない？
日本語教室のイメージが見えない。

役割

閉ざされた日本語教室にしない
＝ 多文化共生の地域づくり

企業・地域へ理解してもらい、就業や地域への参画に繋げる

各種団体から依頼

公民館行事で母国の料理を紹介。地域運動会にも参加。高校の授業で母国紹介など

ボランティアの確保

外国人を知ってもらう！

「多文化共生」重要性へのコンセンサス
とにたく、市民、議会、職員に周知徹底

「広報すること」
＝ 読み手に「行動させること」
“へえ。今度、〇〇してみようかなあ。”

行政

外国人の存在認識

市民へ外国人を見せる取組

広報紙に外国人を紹介！



地域団体

高齢者大学、高校、公民館などで「多文化共生」をテーマに講演会を開催



ケーブルTV

多文化共生＝地域づくり
市民の理解が基礎となる



日ごろからの関係者の連携

1. 各地域の現状について

- 行政や関係団体の日本語教育への関心度
- 県内・市内国際化協会等との連携（国際交流協会やNPOなど）

2. 地域の外国人状況について

- 在留資格・年齢・性別など、どんな外国人が多いか
- 外国人コミュニティとのつながり

3. 地域課題と外国人市民の関わり

- 地域の“強み”と“弱み”
（例：強み・・・自然が豊か、人と人の繋がりが強い
弱み・・・都市部から遠い、高齢化）
- 外国人市民が地域と関わる場面
（例：子どものことで学校等、仕事など）
- 外国人市民に関わってもらいたいと思う場面
（例：インバウンド、災害時など）

日本語教育への期待



きぼう

持続可能な社会、安心安全なまちづくり、環境保全（農・林・漁など資源管理）、子どもへの投資

きもち

差別・偏見・社会的排除、パワハラ、セクハラ、いじめ、ひきこもり、DV、虐待、ネグレクトなど

きそ

基本的人権、生存権、勤労の権利、教育を受ける権利、学問・信仰の自由、社会保障（年金、介護・労働など各種保険）、言語保証

○誰もが社会の構成員として自覚できること

○誰もが個性を発揮できること

○自分と他人の存在価値を認めあえること

多文化共生マネージャーとしての役割

★ステークホルダーを見つける

→行政担当者、企業、ハローワーク、福祉関係など

★現状と課題を周りに見せる

→現状+可能性を示す

★参加と行動に繋げる

→ステークホルダーと協働をデザインする

★教室から地域への働きかけ・関わりの事例

→(例)地域のお祭りや防災訓練への参加等

ご清聴ありがとうございました

